

## 2023年秋の特別展「北宋書画精華」に 米・メトロポリタン美術館からの出品が決定



重要美術品「五馬図巻」(部分) 李公麟筆  
中国・北宋時代 11世紀 東京国立博物館蔵  
Image: TNM Image Archives



「孝経図巻」(部分) 李公麟筆  
中国・北宋時代 元豊8年(1085)頃 メトロポリタン美術館蔵

根津美術館(東京・港区南青山)が2023年秋に開催する特別展「北宋書画精華」に、メトロポリタン美術館(米  
国・ニューヨーク市)から、「孝経図巻」(李公麟筆、中国・北宋時代、元豊8年(1085)頃)と、「畢世長像(睢  
陽五老図巻断簡)」(中国・北宋時代、11~12世紀)の2件が出品されることが決定いたしました。

宋時代(910~1279)は中国書画史における頂点であり、その作品は後世、「古典」とされました。日本でも、南宋時代(1127~1279)の作品を主に、古くから収集の対象とされましたが、北宋時代(910~1127)の書画も、清朝崩壊にともない流出した作品をアジアにとどめるべく近代日本の実業家が精力的に収集したため、重要な作例が数多く伝わっています。その一つ、北宋を代表する画家・李公麟(1049?~1106)の幻の真作「五馬図巻」(重要美術品、中国・北宋時代、11世紀、東京国立博物館蔵)が2018年、約80年ぶりに再び姿を現しました。これまでモノクロのコロタイプ印刷のみで知られていたその表現は、意外にも、繊細ながら色彩豊かで、「白描画の名手」という李公麟のイメージを超えるものでした。

この「五馬図巻」をはじめ、日本に伝存する北宋時代の書画の優品を集める特別展「北宋書画精華」の意義が認められ、李公麟の白描画の基準作といえる「孝経図巻」と、北宋の絵画が到達した迫真的な肖像表現を見せる「畢世長像(睢陽五老図巻断簡)」、メトロポリタン美術館が誇る中国絵画の名品が特別出品されることになりました。ことに、李公麟の二大傑作「孝経図巻」と「五馬図巻」が同じ空間に展示されることは空前の出来事と言えます。

北宋の書画の真髄に迫る、日本で初めての展覧会に、どうぞご期待ください。  
全展示作品のリストを含む次回リリースは、2023年8月ごろを予定しています。

## 北宋とは

宋は、中国・五代、後周の將軍であった趙匡胤<sup>ちようきやういん</sup>が建てた王朝。金の侵入により江南に逃れる前を北宋（960～1127）、以降を南宋（1127～1279）という。北宋は日本の平安後期とほぼ同時代であるが、中国史では両宋あわせ近世の始まりとされ、中国におけるルネサンスとも評される。羅針盤、火薬、活版技術など今日につながる科学技術が発明される一方、芸術面でも中国美術の最高峰が形成された。絵画では水墨山水画の古典が生まれ、書では行草書が個性を映す書体として進化を遂げ、工芸でも宮廷用に汝窯<sup>じよよう</sup>などで究極の青いやきものが作られた。歴代の中国皇帝たちにとって憧れの書画工芸が生み出されたのが北宋時代なのである。

## 李公麟<sup>りこうりん</sup>とは

李公麟<sup>りこうりん</sup>（1049？～1106）は、北宋時代を代表する画家の一人。舒城<sup>じょじょう</sup>（現在の安徽省六安市）の富豪の家に生まれる。熙寧3年（1070）に科挙に合格し、官僚として活躍した後、元符3年（1100）退隠。幼い頃から書や絵画の名品に親しみ、自らも収集に努めるとともに、それらの模写と研究を通じて書画の才覚を磨いた。とくに唐の呉道玄や六朝の顧愷之<sup>こがいし</sup>に学んで伝統的な線描を身につける一方、書法や古文字にも精通して、線のみで対象を描く白描画に独自のスタイルを確立した。なかでも画馬に優れたと伝え、また蘇軾<sup>そしよく</sup>や黄庭堅<sup>こうていけん</sup>など同時代の文人に高く評価された。

## 孝経図巻<sup>こうきやうずかん</sup>とは

中国の儒学で聖典とされる十三経のうちの一つである「孝経」の内容を章ごとに絵に描き、本文を書いたもの。謹直かつ洗練された描線により、気品あふれる画面を作り出す。線を主としながら、山水や樹石には墨の濃淡や点描風の描写も認められ、水墨山水画が大成された北宋時代にふさわしい清新な白描画風を示している。必ずしも具体的ではない本文を、群像表現や風俗描写を含め魅力的な画面に表す構想力にも目を見張らされる。李公麟の書画の研鑽とともに、学識の高さもうかがわせる作品である。

## 五馬図巻<sup>ごばずかん</sup>とは

西域諸国から北宋に献じられた5頭の名馬を描いた作品。歴代の中国皇帝が「神品」として高く評価してきたが、清朝末期、20世紀初めに紫禁城を離れ、日本にわたった。1928年（昭和3年）、昭和天皇御大典祝賀記念として東京府美術館（現・東京都美術館）で開催された展覧会に出品、1933年には重要美術品に指定されたが、以降、表舞台から消えた。戦災で失われたとも言われたが、2018年に存在が確認され、翌2019年に東京国立博物館で開催された特別展「顔真卿<sup>がんしんけい</sup> 王羲之<sup>おうぎし</sup>を超えた名筆」で展示、話題を呼んだ。細線を引き重ね、繊細な彩色を施したその表現は、「白描画の名手」李公麟のイメージを覆すものであり、北宋絵画史の書き換えを迫るほどのインパクトをもたらした。

## 特別展「北宋書画精華」開催概要

- 【会 期】 2023年11月3日（金・祝）～12月3日（日）  
【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]  
【休館日】 毎週月曜日  
【入館料】 未定  
【住 所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号  
【監 修】 板倉聖哲（東京大学 東洋文化研究所教授・根津美術館理事）  
【主 催】 根津美術館  
【ウェブサイト】 <https://www.nezu-muse.or.jp>  
【お問合せ】 根津美術館 学芸部広報課 所・村岡  
TEL( 広報直通 ) 03-3400-2538 FAX 03-3400-2436  
MAIL: [press@nezu-muse.or.jp](mailto:press@nezu-muse.or.jp)

\*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2023.5.)

以 上

根津美術館 特別展「北宋書画精華」ご紹介の際に画像を希望される方は、以下に必要事項を記入の上、上記 FAX または e-mail へご送付ください。

この申請書のご提出をもって、以下の＜利用規定＞に御同意いただいたものとします。

- ＜利用規定＞
- ・画像の使用は、「北宋書画精華」展ご紹介の目的に限ります。
  - ・ご希望の画像にチェックを付けて下さい。
  - ・画像を使用する場合は、下記クレジットを必ず併記して下さい。
  - ・文字乗せ、トリミング、切り抜きは禁止です。

「孝経図巻」(部分)

李公麟筆 中国・北宋時代 元豊8年(1085)頃 メトロポリタン美術館蔵

重要美術品 「五馬図巻」(部分)

李公麟筆 中国・北宋時代 11世紀 東京国立博物館蔵

Image: TNM Image Archives

・媒体名 \_\_\_\_\_

・社名 \_\_\_\_\_

・ご担当者 \_\_\_\_\_ 様

・TEL \_\_\_\_\_ ・FAX \_\_\_\_\_

・E-mail \_\_\_\_\_

・発行 / 発信予定日 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 (予定)

【お問合せ】 根津美術館 学芸部広報課 所・村岡  
TEL(広報直通) 03-3400-2538 FAX 03-3400-2436  
MAIL: press@nezu-muse.or.jp